

農林水産物の生産等概況について

1 要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

2 現状・背景

3 概要

(1) 調査対象

卸売市場，出荷団体等

(2) 調査期間

令和3年10月～令和4年1月

(3) 調査結果

ア 気象概況

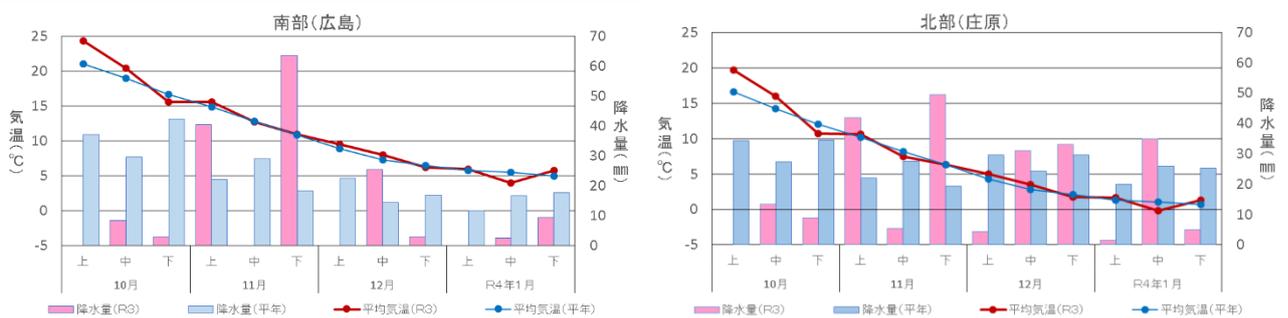
10月は、中旬まで南部・北部とも晴天が続き、気温が平年より2～3℃高く、下旬は、寒気の影響を受け、平年より低い気温となった。降水量は少なく、平年の1～2割となった。

11月は、南部・北部とも、平年並みの気温で推移した。降水量は、上旬と下旬にまとまった雨が降ったため、南部で平年より5割多く、北部で平年より4割多くなった。

12月は、南部・北部とも、平年並みの気温で推移した。中旬から下旬にかけては冬型の気圧配置が強まったため、北部では雪となり、庄原市高野町では、平年を3割上回る積雪となった。南部では晴天日が多くなった。

1月は、冬型の気圧配置が更に強まり、寒気が流れ込んだため、中旬には南部・北部とも平年より気温が低くなった。降水量は、北部では、中旬に雪の日もあったが、平年より4割少なく、南部では平年より7割少なくなった。

令和3年10月から令和4年1月の気温及び降水量の推移



イ 農産物

(7) 普通作物の生産状況

a 水稻

【主食用米】

令和3年産の主食用米の本県作付面積は21,700haで、前年産に比べ300ha減少した。

作柄については、9月下旬以降の好天により刈取の遅い南部では「平年並（作況指数：101）」となったものの、北部は8月中旬から9月中旬までの日照不足や、いもち病の被害等があったことから「やや不良（同：97）」となった。

県産米の価格は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国の民間在庫量が大幅に増加していることなどから、令和2年産から1割程度下落している。

令和4年産の作付けについては、コロナ禍の影響により県産米の民間在庫量が増加傾向にあることから、3年産の作付けから約300haの削減を目安とされている。

【酒造好適米（酒米）】

酒米は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う日本酒の消費量の減少により、令和3年産の作付けは、令和2年産から約220ha（4割）削減した結果、販売は、概ね計画どおり進み、完了している。

令和4年産の作付けについては、酒米の在庫が解消したことから、令和3年産の作付けから約140ha増える見込みとなったが、令和元年産からは約100ha少なく、コロナ禍前の水準には回復していない。

(イ) 野菜の生産状況

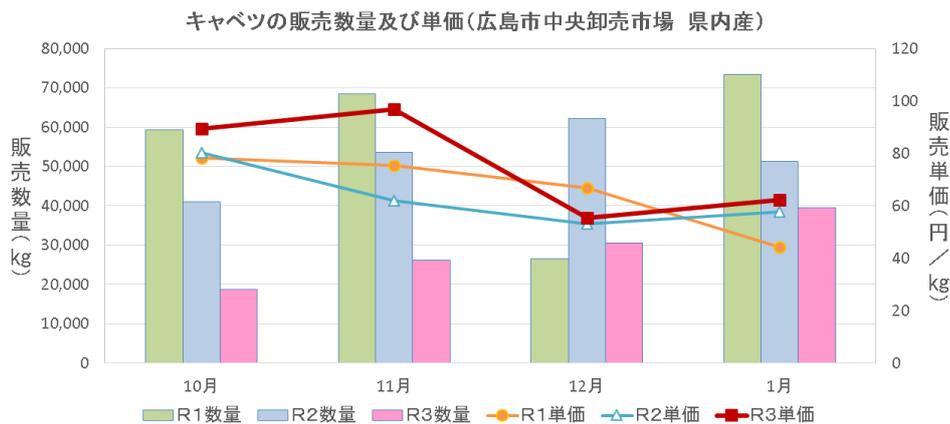
a キャベツ

大規模経営体では、市場出荷からカット加工向け契約栽培への移行が進み、市場での販売数量は減少傾向である。

市場には尾道市や呉市などで生産されたものが主に入荷している。

販売数量は、夏場の長雨による定植遅れにより10月に大きく減少した。

9月以降に定植したものは、定植後の乾燥による初期生育の遅れや、玉太りの悪化等により、販売数量が伸びていない。



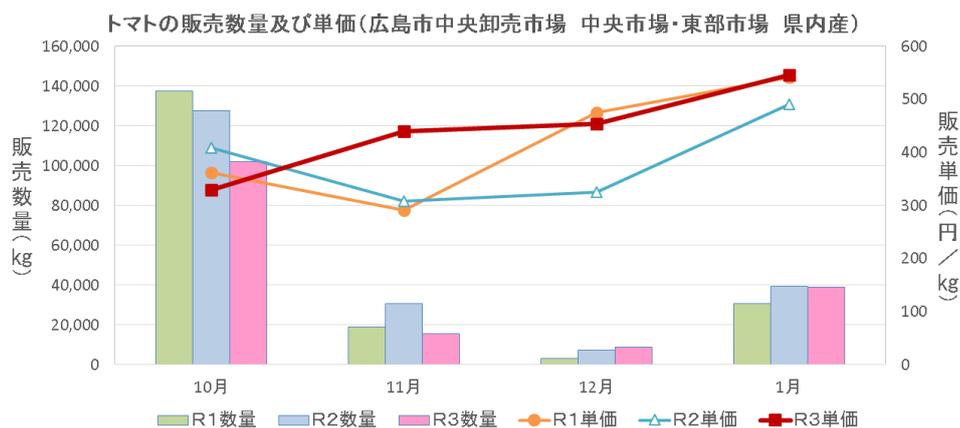
b トマト

11月までは主に神石高原町や北広島町産の夏秋トマトが入荷している。

夏秋トマト販売数量は、夏場の天候不順による樹勢低下のため、収穫終了が早まったため、過去2年より少なくなっている

12月からは主に呉市倉橋町で生産された冬春トマトの出荷が始まっており、気温が低い中ではあるが、生育モニタリング等に基づく栽培管理により順調な生育となった。

販売単価は、気温が低い影響で九州産の入荷が遅れていることに加え、県内産は、卸売会社が暖房経費の増加を考慮して予約相対価格を決定しており、前年に比べ約1割高で推移している。

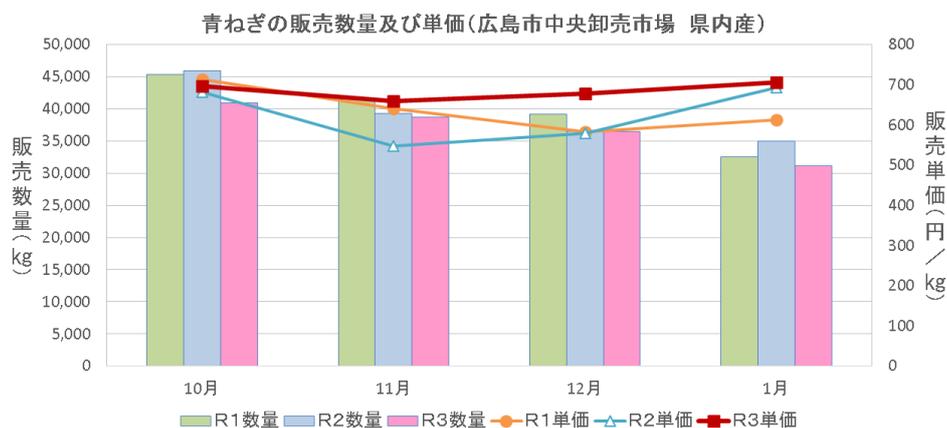


c 青ねぎ

安芸高田市等の施設で生産されたものが主に入荷している。

1月は気温の低い日が続いたことに加え、燃油価格が高騰していることから、暖房費の増加を抑えるため例年より低めの温度管理が行われ、出荷量がやや減少した。

販売単価は、大きな変動がなく、安定している。

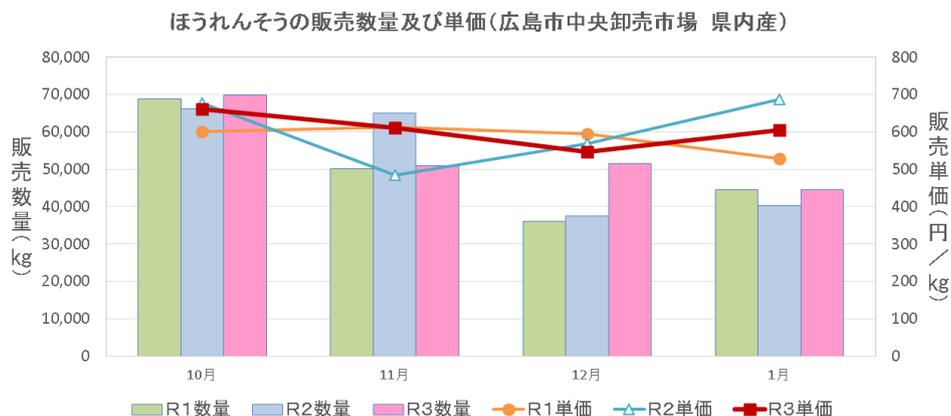


d ほうれんそう

広島市、庄原市等で生産されたものが入荷している。

販売数量は、大規模経営体の施設整備による面積拡大や、こまつなから単価の高いほうれんそうへの品目転換が進み、増加した。

販売単価は、大きな変動がなく、安定している。



(ウ) 果樹の生産状況

a うんしゅうみかん（JA広島果実連扱い）

販売開始時期は平年並みで、極早生は10月5日、早生は11月5日、普通（いしじ等）は11月30日からとなった。

極早生では、夏場の長雨・日照不足により、平年に比べ糖度・酸度ともに低かった。9月以降は晴天、少雨となったことから、早生以降の糖度は平年並みとなった。

販売数量は、本県ではうんしゅうみかんの表年に当たることから、1月末時点で前年より631t（16%）多くなった。

販売単価は、全国的に裏年で市場入荷数量が少ないことから、前年並みであった。

広島県産うんしゅうみかんの販売状況

	販売数量			販売単価		
	t	前年比 (%)	前々年比 (%)	円/kg	前年比 (%)	前々年比 (%)
極早生	599	104	76	230	88	109
早生	2,217	123	83	276	99	122
いしじ	1,131	98	89	319	104	110
普通（いしじ除く）	712	145	81	247	106	107

（注）JA広島果実連扱いの令和4年1月末までの累計。

b レモン（JA広島果実連扱い）

販売数量は、昨年の寒波被害による樹勢低下の影響で着果量が少なく、前年産の2割減のペースで推移している。

価格は、前年・前々年より高値傾向で推移している。

広島県産レモンの販売状況

	販売数量			販売単価		
	t	前年比 (%)	前々年比 (%)	円/kg	前年比 (%)	前々年比 (%)
レモン	765	80	101	439	106	104

（注）JA広島果実連扱いの令和3年10月から令和4年1月末までの累計。

【参考】 主な中晩柑類の今後の生産量見込（JA広島果実連調べ）

中晩柑類の生産量は前年並みを見込んでいる。

酸度は平年並みまで十分に下がっており、食味評価は良好である。

令和3年産 県内産中晩柑類の予想生産量

区分	生産量 (t)			対比 (%)	
	R3年産(見込)	前年産	前々年産	前年産比	前々年産比
ネーブルオレンジ	1,918	1,916	1,907	100	101
はっさく	4,714	4,344	5,275	109	89
しらぬひ	3,186	3,167	3,449	101	92
はるみ	1,380	1,358	1,460	102	95

（注）JA広島果実連調べ（令和3年12月）。JA広島果実連扱いの果実以外を含む。

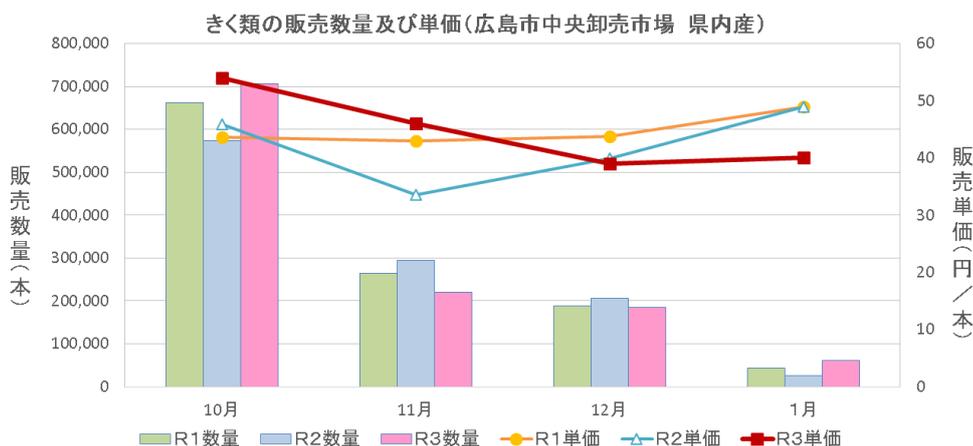
(I) 花きの生産状況

a きく（広島市中央卸売市場花き部）

販売数量は、11月以降、県北産の出荷が終わり、南部の産地が中心となったことで減少した。

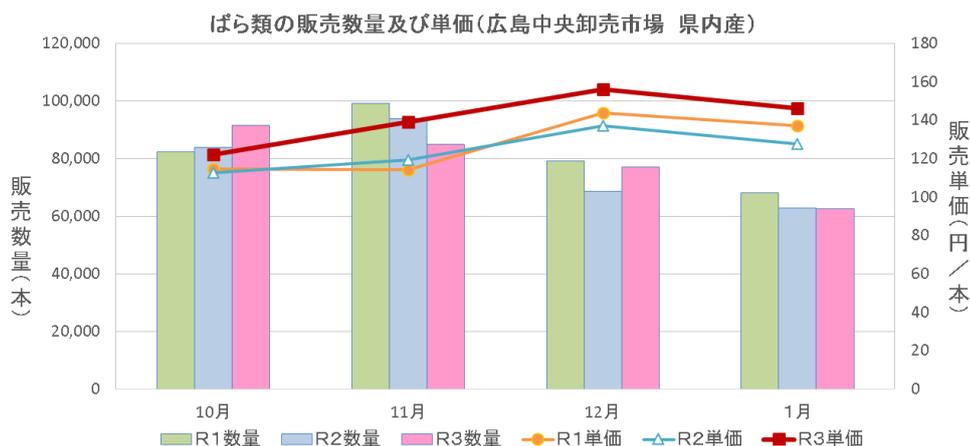
10月の単価は、新型コロナ感染拡大防止集中対策（令和3年7月31日～10月14日）の終了による需要の増加に伴い、概ね高値となった。

11月以降の単価は、品質の良い沖縄県産が多く入荷したことで低下した。



b ばら（広島市中央卸売市場花き部）

10月から12月のばらの単価は、新型コロナ感染拡大防止集中対策（令和3年7月31日～10月14日）の終了による需要の増加と、安定した家庭需要により、概ね高値で推移している。



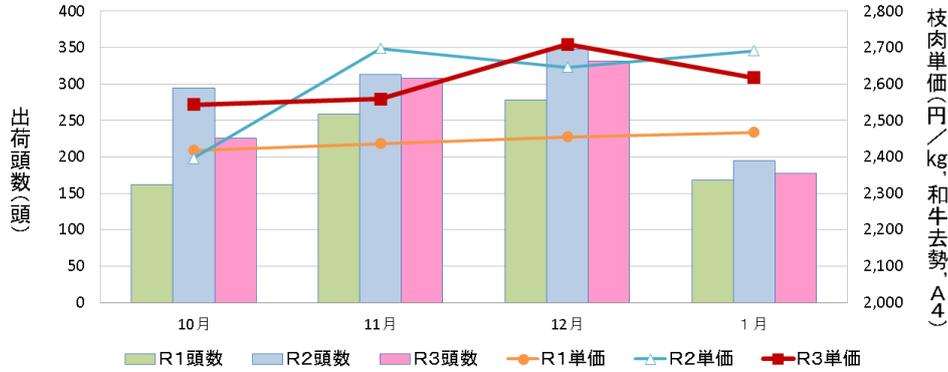
ウ 畜産物

(ア) 和牛

出荷頭数は、10月から1月まで前年を下回って推移している（77%～98%）。

1月に入り、新型コロナウイルス感染症の影響により外食向けの需要が低迷したものの、枝肉単価は、10月から1月までほぼ前年並みで推移している。

和牛の出荷頭数及び単価（広島市中央卸売市場食肉市場）



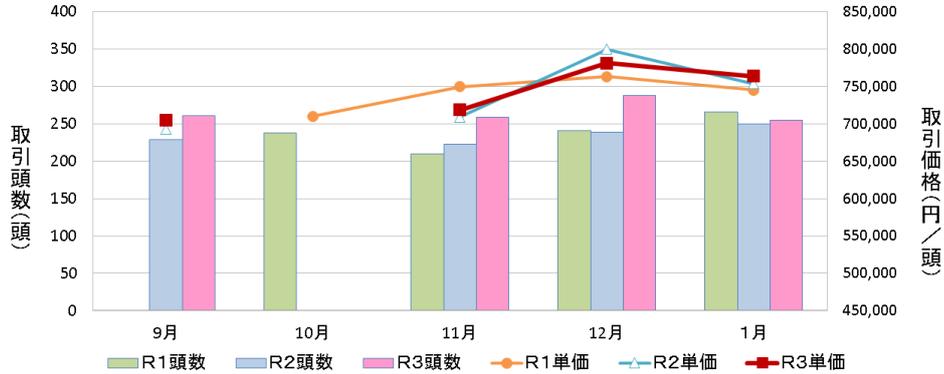
※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 出荷頭数は全ての和牛（成牛），枝肉単価は和牛去勢A4で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

(イ) 和牛子牛

出荷頭数は、9月から1月まで前年よりも上回って推移している。

子牛取引価格は、前年並みで推移している。

和牛子牛の取引頭数と価格

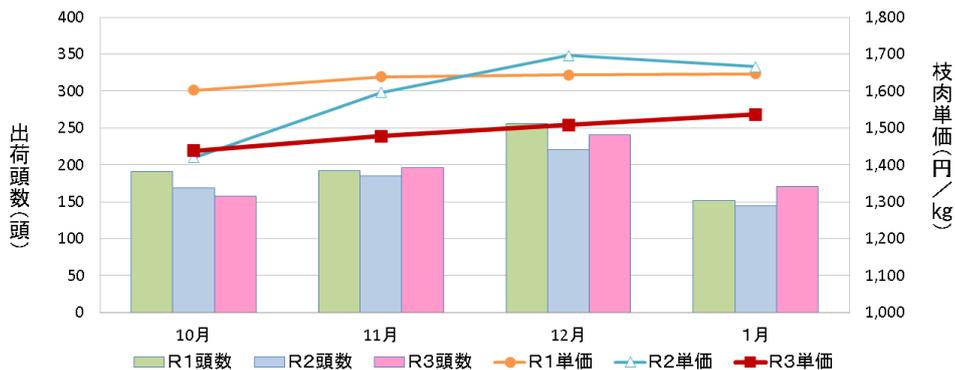


※ 「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ウ) 交雑牛

新型コロナウイルス感染症の影響により外食向けの需要が低迷し、11月以降の枝肉単価は、前年を下回って推移している（89～93%）。

交雑牛の出荷頭数及び単価

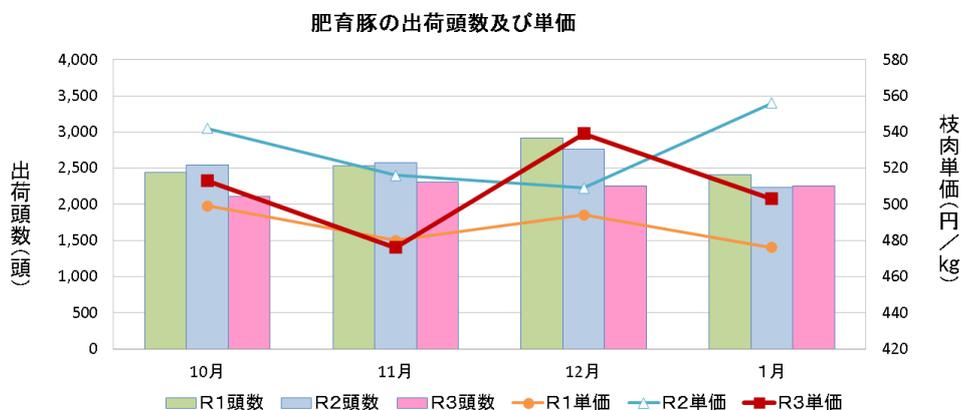


※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 出荷頭数は全ての交雑牛（成牛），枝肉単価は交雑牛去勢B3で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

(イ) 豚

出荷頭数は、月により増減はあるが、前年並みで推移している。

令和3年12月の枝肉単価は、外食向けの需要が好調で前年より6%上昇し、新型コロナウイルスまん延防止等重点措置が適用された1月は、外食向けの需要が低迷し、前年より10%低下している。



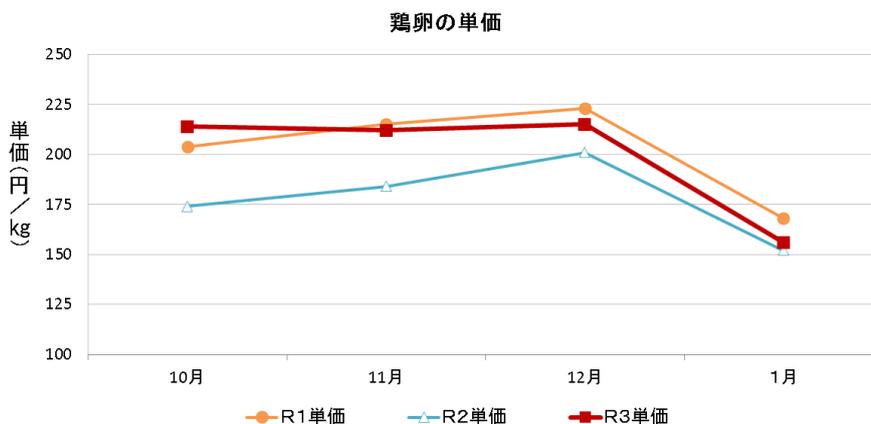
※「広島市中央卸売市場食肉市場」の県内産

※「食肉市況速報」(公社)日本食肉市場卸売協会から引用。

枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(オ) 鶏卵(全農ひろしま M)

前年より高値で推移していた単価が新型コロナウイルス感染症の影響により外食向けの需要が低迷し、1月は前年並みとなっている。

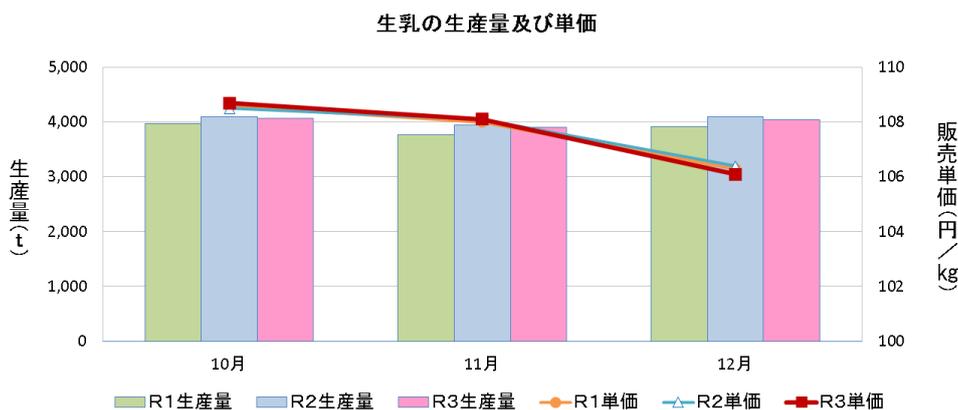


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」(M品の単価)

(カ) 酪農

乳価は、令和3年に入り前年並みで推移している。

生乳生産量は、10月以降、前年並みで推移している。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合開取りで手取り乳価。

(キ) 飼料

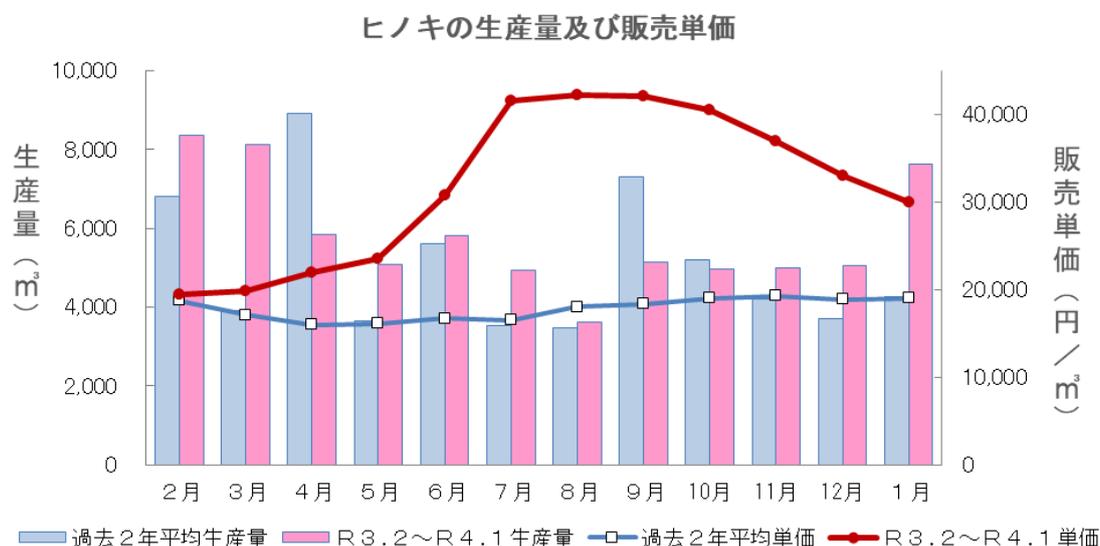
配合飼料は、穀物のシカゴ相場の上昇や円安等により、令和4年1月～3月期は前期に対し平均トン当たり2,900円（前期比約4%）の値上げ（全農系）となった。

粗飼料は、新型コロナウイルスの感染拡大による世界主要コンテナ港の港湾労働者不足等によって海上輸送に混乱が生じ始めているが、生産者団体等は県内需要に応じている。

エ 林産物

主に住宅の柱や土台に利用されているヒノキは、販売単価が、昨年2月以降、輸入木材の価格高騰や品不足の影響により高騰し、8月をピークに下落傾向に転じているが、依然として県産材の引き合いが強いため、高値で推移している。

また、生産量については、森林組合などが、製材工場等への安定供給を図り、品不足に対応するため、生産を増やしており、例年を上回る水準で推移している。



※生産量：県内の森林組合におけるヒノキの生産量（林業課調べ）

販売単価：広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの販売単価

オ 水産物

(ア) 水温

2月上旬の県内海域の表層の水温は8.9～11.8℃で、平年差は-1.0～+0.6℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
2月上旬の水温	10.9～11.7℃	11.4～11.8℃	8.9～11.7℃
平年差	-0.1～+0.6℃	-0.3～-0.1℃	-1.0～+0.2℃

(イ) 漁獲状況

a 取扱数量

広島市中央卸売市場における12月の県内産の主要な水産物20品目の取扱数量は、マダイ、カワハギ、サワラ、キジハタの4品目で平年を上回った。一方で、16品目で平年を下回った。

b 取扱単価

県内産水産物の取扱単価については、20品目中15品目で平年を上回った。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（令和3年12月）

品 目	市 場 全 体						県 内 産					
	数 量			単 価			数 量			単 価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	50.9	86	118	769	118	74	14.9	87	111	648	107	71
スズキ	15.6	109	76	511	115	92	11.8	126	95	452	125	99
カワハギ	20.3	91	46	1,235	141	175	6.8	90	123	2,232	168	162
クロダイ	4.7	103	78	332	92	80	4.2	98	79	349	95	81
シタビラメ	4.5	102	44	901	117	120	3.1	97	38	825	116	111
ナマコ	37.0	97	61	1,985	111	144	2.5	137	47	2,586	66	185
アナゴ	41.7	98	88	1,972	144	121	2.4	61	46	1,850	157	134
コウイカ	3.6	77	49	728	115	141	1.9	97	41	835	114	155
タコ	8.1	44	31	2,386	167	168	1.7	62	21	2,504	164	170
サワラ	20.6	95	92	1,275	139	109	1.4	69	295	1,199	139	112
ヒラメ	8.9	107	78	2,039	104	108	0.9	97	70	2,270	113	116
カサゴ	1.0	68	34	706	108	90	0.7	74	36	668	101	88
オコゼ	0.8	123	54	2,003	112	109	0.5	170	50	1,796	106	107
メバル	4.2	49	46	1,712	150	126	0.5	31	17	1,443	129	106
キジハタ	0.5	108	90	2,384	126	104	0.4	129	171	2,431	132	108
サバ	42.8	76	47	350	101	96	0.4	132	37	412	40	25
マアジ	53.8	92	74	454	99	93	0.3	136	27	1,352	80	120
タチウオ	20.5	129	61	901	101	96	0.2	12	1	1,325	141	138
サヨリ	2.4	90	36	955	130	111	0.2	10	4	1,202	156	172
ガザミ	1.3	83	27	6,652	154	221	0.2	43	9	4,675	162	205

※平年値は平成23年～令和2年の平均

c 煮干共販実績

6月中旬から出荷が始まった煮干し（いりこ、ちりめん）については、1月末現在、共販数量は平年比135%の2,239 t、共販金額は平年比134%の14億6千3百万円であった。

広島県煮干共販出荷実績（1月末現在累計）

区 分	数量（t）	金額（千円）	単価（円/kg）
令和3年度 （平年比）	2,239 （135%）	1,463,148 （134%）	653 （99%）
平 年	1,656	1,091,159	659

※平年値は平成23年～令和2年の平均（1月末累計）

(7) 養殖状況

a かき養殖

2月上旬の平均むき身重量は18.4gで、平年の116%となった。平均単価は675円/kgで、平年の109%であった。

外食向けの出荷は低迷しているが、家庭での消費が堅調であり、量販店向けの出荷は順調となっている。

b のり養殖

12月下旬から出荷が始まり、共販数量は平年並みであったが、平均単価が平年を下回り、共販金額は平年の87%となった。